

編集後記

過日（8/28～8/29）、岩木町鳥井野から賀田へ抜ける町道沿いの林縁で、イカルの群れと何度か遭遇した。車のエンジン音に気づき、広葉樹林の天辺へ10羽あまりが散らばった。地面の草の実を食べていたらしい。双眼鏡で観察。黒い頭に嘴が黄色く、もっちりとした、コントラストのはっきりした23cm位の鳥だ。あの“斑鳩の里”に由来する野鳥らしい。オキクニジュウシ（お菊二十四）と聞きなすそうだが、囀りは無く、ギユ、ギユというコールしか聴けなかった。岩木山周辺は野鳥の生息総密度が保存されている。学者がなんと言おうと、ラインセンサス法や定点観察のみでは、鳥類の生態の大部分は推し量ることができないと改めて思う。／近頃は、幹や根を無視した枝葉末節に囚われた議論が多過ぎるようだ。チラシやインターネット上のフライング広告の杜撰さと屋外広告物の県条例違反は、目に余るものがある。コンプライアンスを喪失した企業の行き付く先は？世間と消費者を甘く見ていると、手痛い、しっぺ返しに遭うだろう。企業の最大のライバルは誰か。奇をてらった商売が‘傷売’になってはいないか。土地にだって品格があるのは周知の事実。まさに“社徳が問われる時代”なのだ、という謙虚な姿勢が求められている。（酒悦）